

1.研修プログラムの名称

リウマチ・膠原病内科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

初期研修では、短期間で一診療科をラウンドするので、概して見学に終わってしまうことが多いのですが、リウマチ膠原病内科では、考えて行動・実践する姿勢を教育したいと考えています。医療チームとは、お互いがお互いを尊重し、お互いがお互いをカバーしあうことによって成り立ちます。研修医には研修医にしかできないこと、得意なことが必ずあるはずで、研修医にあった指導を目指しています。

3.到達目標

リウマチ膠原病はひとつの疾患が多彩な症状や多くの臓器病変を同時に呈し、さらにさまざまな合併症を呈す、複雑な疾患と捉えられがちですが、実際は非常に簡単です。例えば、治療薬としてはどの疾患もステロイド剤を基本的に使用し、難治性の場合には免疫抑制剤を併用しますが、実際に使用する免疫抑制剤は5種類程度です。大切なことは、確定診断が何かを決めること、症状が膠原病によるものか、または目と見感染症などの合併症によるものかを鑑別することです。最近では、分からなければすぐ検査の風潮ですが、患者さんの話を良く聞くこと、患者さんをよく診察することが解決の糸口になることが多いです。

4.指導体制・方略

指導医、臨床研修医から構成される診療グループに配属され診療にあたりますが、担当患者以外でも経験できる項目については経験することが可能である。

毎週火曜日午後に新患紹介と症例検討を行い、診療科長の回診を行います。

5.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午前						
午後		カンファレンス、回診				

6.カンファレンス

- ・
- ・
- ・

7.研修活動

膠原病の研究会があれば参加が可能である。

8.評価

1) 研修医自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

PG-EPOC を用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

PG-EPOC を用いて評価する

研修事後レポートより評価する

3) コメディカルによる評価

PG-EPOC 又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

PG-EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

9.その他特記事項

10.研修中に作成する病歴要約

（**赤字**必ず作成する、**太字**可能なかぎり作成する、他 対象疾患を診察したら作成する）

経験すべき症候

ショック、体重減少・るい瘦、**発疹**、**発熱**、頭痛、めまい、意識障害・失神、胸痛、**呼吸困難**、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢・便秘)、**腰・背部痛**、**関節痛**、運動麻痺・筋力低下、終末期の症候

経験すべき疾病・病態

脳血管障害、認知症、心不全、高血圧、肺炎、急性上気道炎、急性胃腸炎、消化器性潰瘍、腎盂腎炎、腎不全、糖尿病、脂質異常症